

# 川西市街路樹維持管理計画 概要版

## 背景と目的

住宅都市として発展してきた本市は、これまで培われた緑豊かな景観が重要な財産となっています。その中で、街路樹を適切に維持管理していくことは、本市のまちの魅力向上につながるものとなります。

一方、街路樹の多くは植栽から年月が経過し、植栽時の想定をはるかに超えて成長したことにより、限られた予算の中で、適切な時期・頻度の剪定など計画的な維持管理が行えておらず、道路交通の安全確保や良好な景観に対する課題等、様々な問題を引き起こしている側面もあります。

このことから、街路樹維持管理計画を定め、適正な維持管理を行うことで緑の質の向上を目指すことを目的とします。

## 現状と課題

現在、本市が管理する道路のうち、街路樹が植栽されている路線は156路線あり、7,452本の街路樹が植栽されています。

現在、実施されている街路樹の剪定頻度は、市内の街路樹が植栽されている路線を偶数年・奇数年に分け、2年に1度の定期剪定の実施、また、一部の路線では、繁茂状況等により必要に応じて剪定を実施しています。

街路樹は年々大きくなり維持管理費が増大していくにもかかわらず、限られた予算の制約状況下においては適正な維持管理を実施していくことが困難になっています。これら街路樹に対し適正な管理が行き届かなかった場合、危険性が增大するとともに並木としての景観の魅力も低下します。それらが積み重なることによって、本市のまちの魅力や暮らしにも様々な影響が生じています。このような負の連鎖を改善・解消することが課題となっています。



図表 1 樹種別植栽本数

## 街路樹維持管理の基本方針

### ■基本方針

本市では、予算内で全数量への適正な維持管理を実現し、**道路交通や市民生活の安全性の確保を前提とし、管理効率の向上を図りながら街路樹の健全な育成による「まちの魅力の向上」を目指す**ことを基本方針とします。

そのため、限られた予算の制約状況下においては、これまでの本数(量)の重視から街路樹の機能や役割を活かす配置と量とし、管理コストの縮減をすることにより適正な維持管理を実施できる状況にしていく必要があります。

課題	視点	取組の方針	
● 道路空間や交通安全施設への影響	安全性の確保	● 安全な通行空間の確保 ● 交差点、横断歩道等の見通しの確保等	伐採
● 予算制約による管理の質の低下	管理効率の向上(適正な配置と量)	● 維持管理が軽減される樹種への植替 ● 適正な配置と量による管理数量の見直し	伐採 間引き 植替
● 景観の悪化			
● 生育環境の悪化	街路樹の健全な育成	● 植栽する道路空間に見合った樹種への植替	植替

予算内での  
適正な維持管理の実現  
**緑の質の向上**

図表 3 街路樹維持管理計画における基本方針

## 対象路線(樹木)の具体化

対象路線(樹木)について、「安全性の確保」「管理効率の向上」「街路樹の健全な育成」の視点により、現状評価を行った上で、取組タイプを定めます。取組タイプは、路線の評価指標を次ページに示す「図表 4」のとおりを設定し、路線(樹木)ごとに「図表 5」に示すフローにより定めます。

なお、市民の思い入れの強い樹種や景観に配慮する路線、特別な理由により保全すべき街路樹については、「安全性の確保」の視点を除き、保全対象<sup>※1</sup>とします。



※1 市木である桜や「川西市景観計画」における景観形成重点地区、「川西市緑の基本計画」における緑化重点地区を通過する路線は、保全対象とする。ただし、「安全性の確保」の視点からの評価にて該当がある場合を除く。

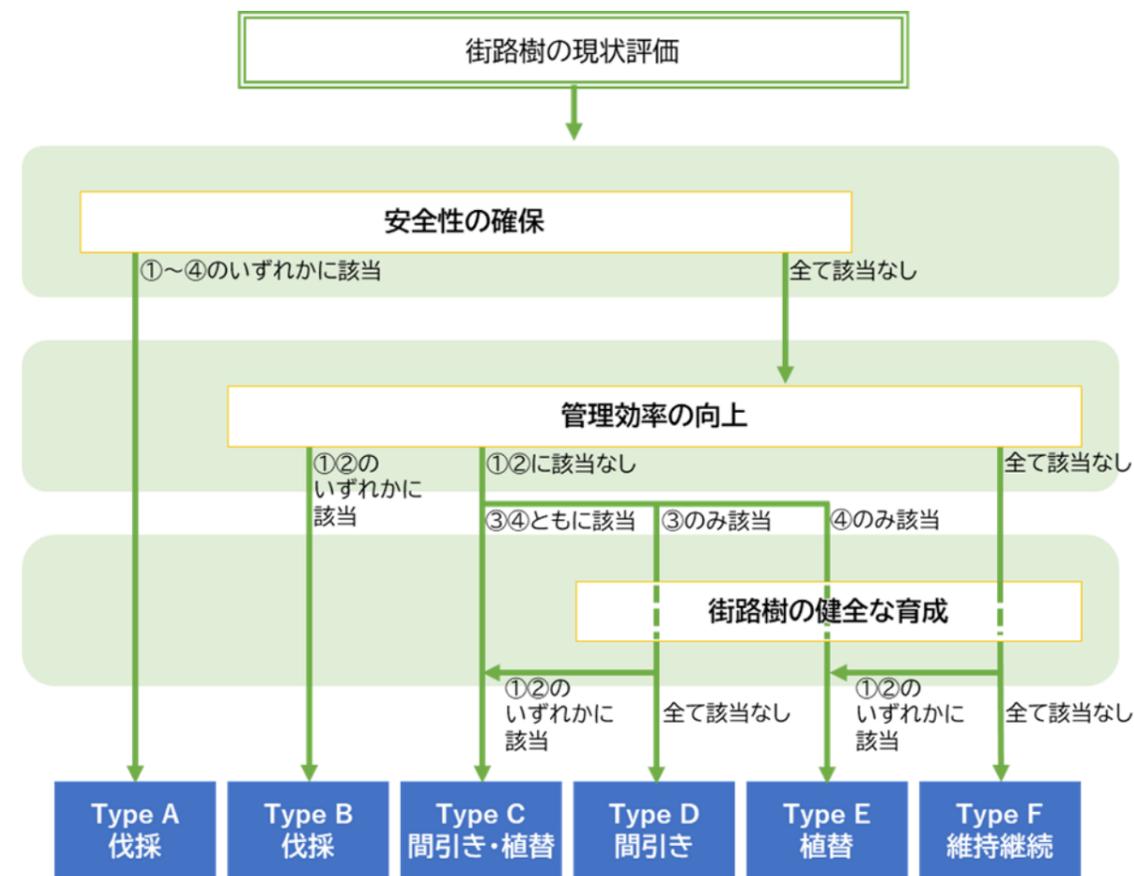
現状	課題
<b>安全面</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>交差点付近や幅員の狭い歩道に植栽され安全な通行や見通しの妨げとなるなど、交通安全上の問題がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大木化が進み、道路空間や沿道状況とのバランスが悪く、交通安全に影響を及ぼしている</li> </ul>
<b>コスト面</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>街路樹の成長により、維持管理費が増大している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた予算で現在の本数を適切に管理することが困難</li> </ul>
<b>景観面</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>街路樹の成長により、緑豊かな景観が形成されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>強剪定などにより街路樹の状態悪化がまちの魅力に影響している</li> </ul>
<b>生育面</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>大きく成長した街路樹に対し、狭い植栽空間が原因で、不健全な状態となっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生育環境の悪化による倒木などのリスクの増大</li> </ul>

図表 2 現状と課題の整理

■ 取組タイプの設定

図表 4 評価指標

伐採	<b>安全性の確保</b>
	① 歩道幅員が狭く基準となる有効幅員(2.0m)を確保できない路線
	② 交差点、横断歩道などの付近で見通しを妨げる樹木
	③ 道路標識、信号、街路灯などに近接している樹木
伐採 間引き 植替	<b>管理効率の向上</b>
	① 沿道にある公園や緑地の樹木と競合している路線で、撤去しても十分な緑を確保できるなど、街路樹の機能を代替できる路線
	② 民地際に植栽され、剪定により不自然な樹形に仕立てられているなど、街路樹本来の機能が十分発揮できない路線
	③ 路線としての植栽間隔が基準(10~12m)よりも狭い路線
植替	<b>街路樹の健全な育成</b>
	① 架空線との競合など、道路の区域内で、健全な樹形や良好な生育環境が維持できなくなると予想される路線
	② 道路構造物などへの影響等が確認あるいは想定される路線



図表 5 取組タイプの設定フロー

計画的な推進

取組タイプを次ページ「図表 7~9」に示します。取組タイプに基づき、街路樹の伐採(間引き)・植替を実施していきます。

沿道住民からは、街路樹を原因とする問題で困っているのが伐採して欲しい、景観として大事にしているので伐採しないで欲しいなど、街路樹に対する多様な価値観に基づく要望・意見が寄せられており、街路樹管理に対する住民意見も多様化しています。このことから、住民との情報共有や認識共有などは、街路樹管理に係る課題の一つでもあります。

また、路線ごとに地域の状況も異なることから、全路線を一度に実施するものではなく、コミュニティ等の地域団体と将来像を共有したうえで街路樹の再整備を行います。このことから、取組タイプを変更することもあります。

(1) 優先順位付け

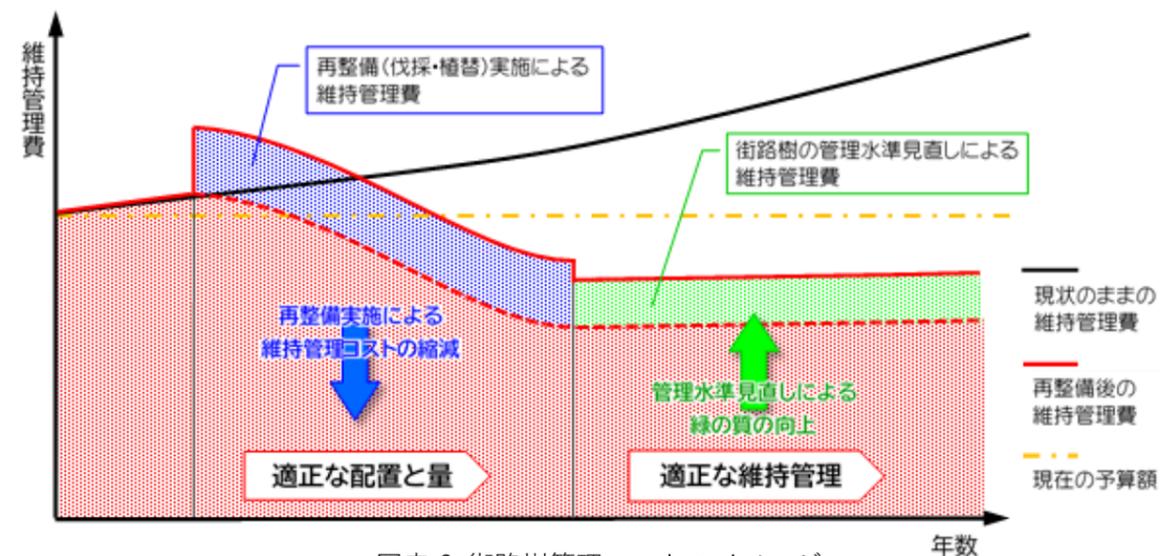
街路樹の再整備の実施については、まず、道路空間の安全性確保を最重要課題とし、順次、「Type A」に設定された路線(樹木)の伐採を実施していきます。その後、「Type B、C、D」に設定された路線の伐採(間引き)を優先して実施することで、維持管理コストの早期縮減を図ります。

街路樹の再整備にあたっては、路線内での連続性確保による良好な道路景観及び緑のネットワークの形成、適切な樹種の選定と配置と量、周辺状況、コミュニティ等の地域団体の意見などを総合的に判断し、その路線に合った街路樹のあり方を同時に見直します。

(2) 適正な維持管理の実現

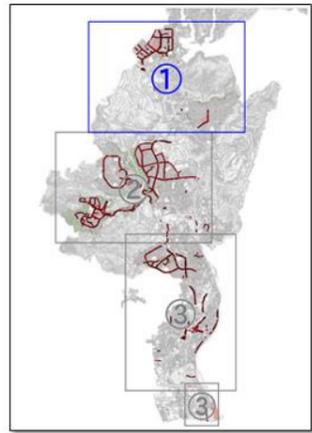
将来を見据え、限られた予算の中で持続可能な維持管理を目指し、これまでの本数(量)の重視から街路樹の機能や役割を活かす「適正な配置と量」とすることによる維持管理コストの縮減を行います。その上で縮減された維持管理コストにより街路樹の管理水準の見直しを行い、「適正な維持管理」による緑の質の向上を目指します。

再整備実施においては、他の道路整備事業にあわせた再整備の実施による国庫補助金の活用やPFI導入による財政支出の平準化など、財政負担軽減についての検討を行います。

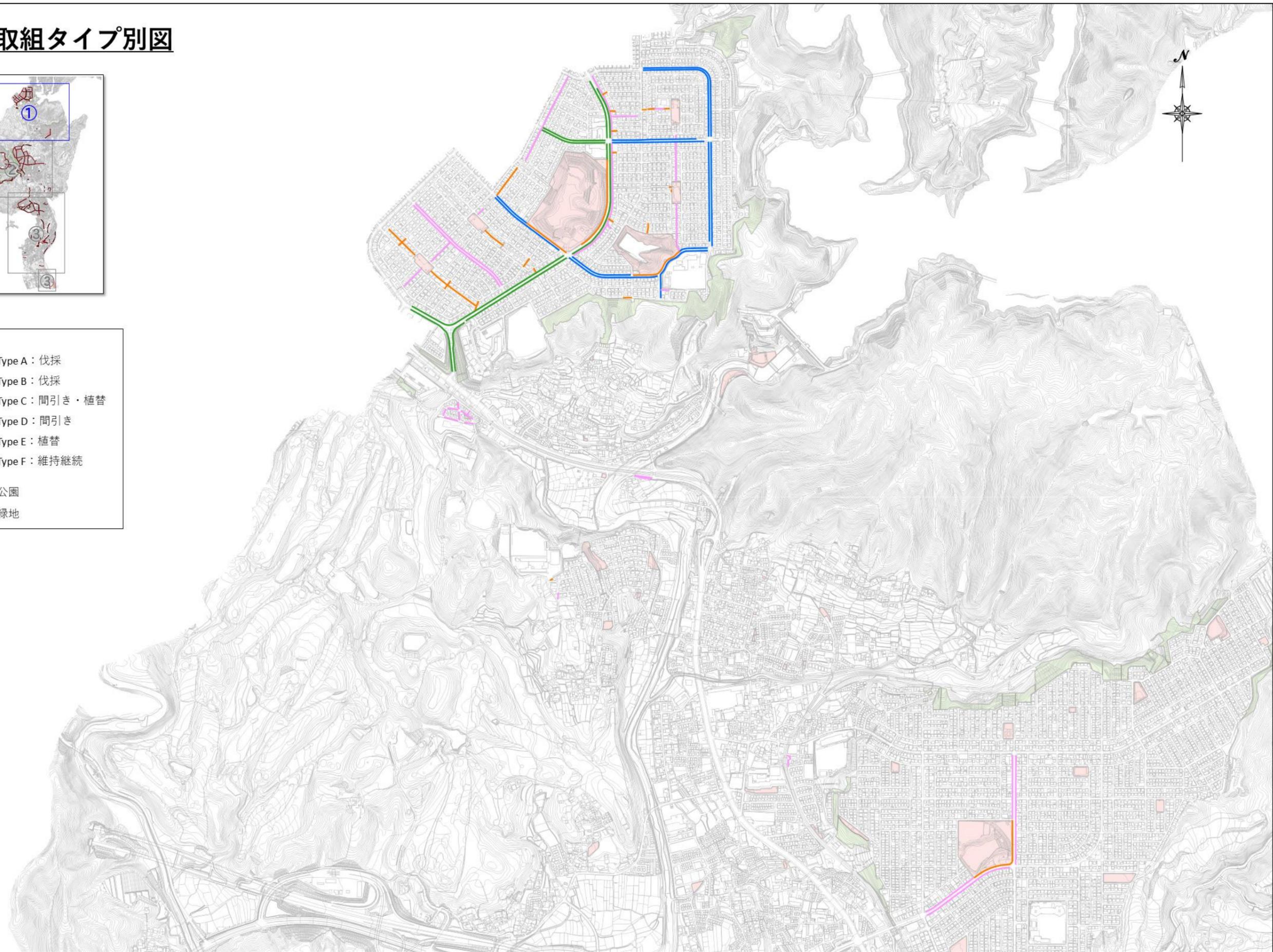


図表 6 街路樹管理コストのイメージ

# 取組タイプ別図

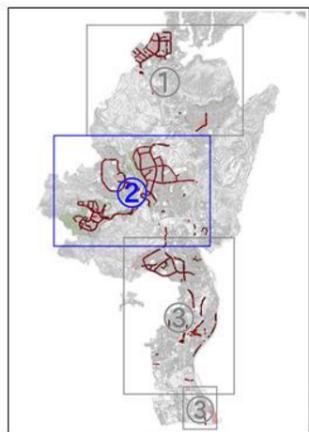


- 凡例
- Type A : 伐採
  - Type B : 伐採
  - Type C : 間引き・植替
  - Type D : 間引き
  - Type E : 植替
  - Type F : 維持継続
  - 公園
  - 緑地

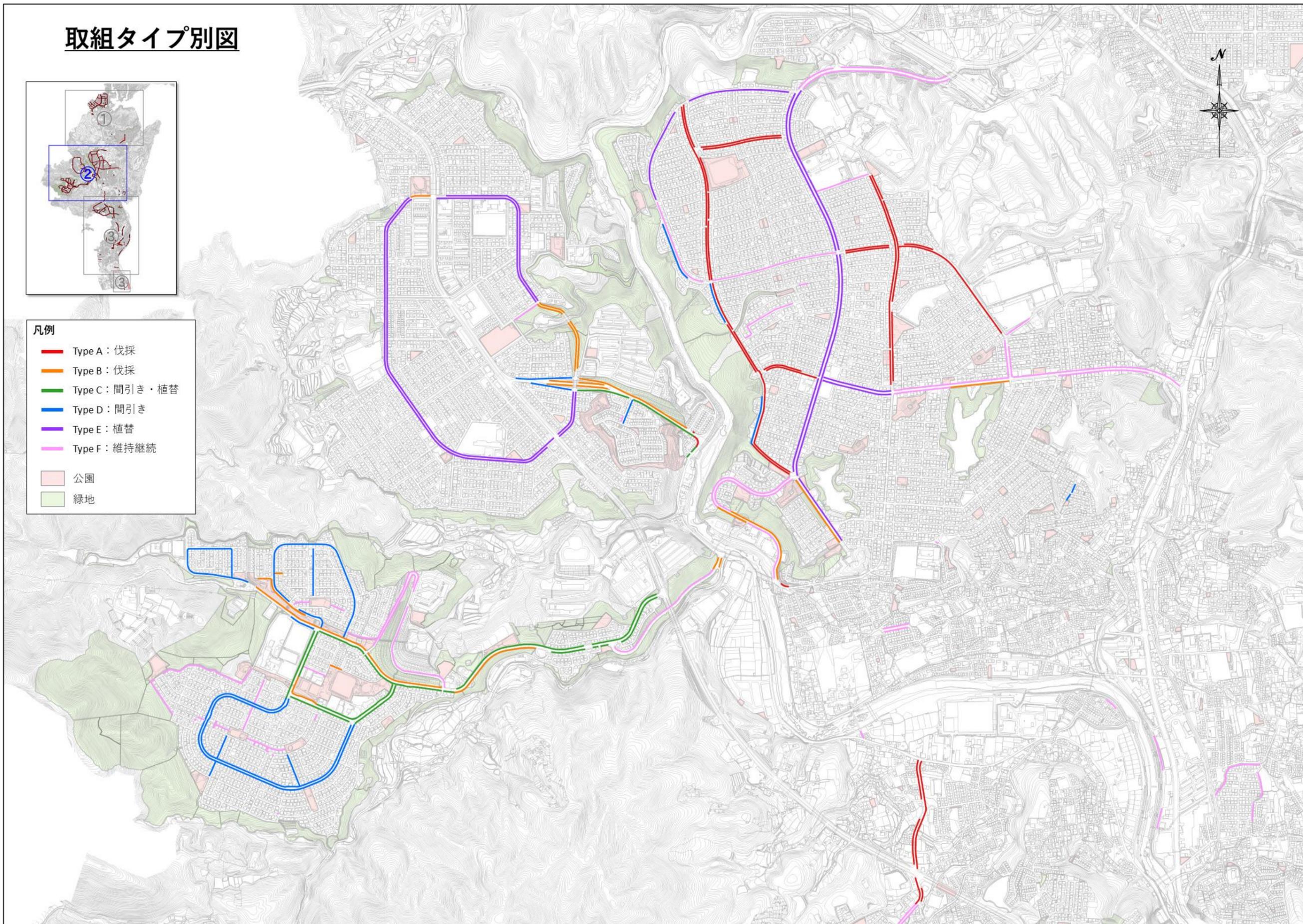


図表 7 取組タイプ別図 (北部)

# 取組タイプ別図

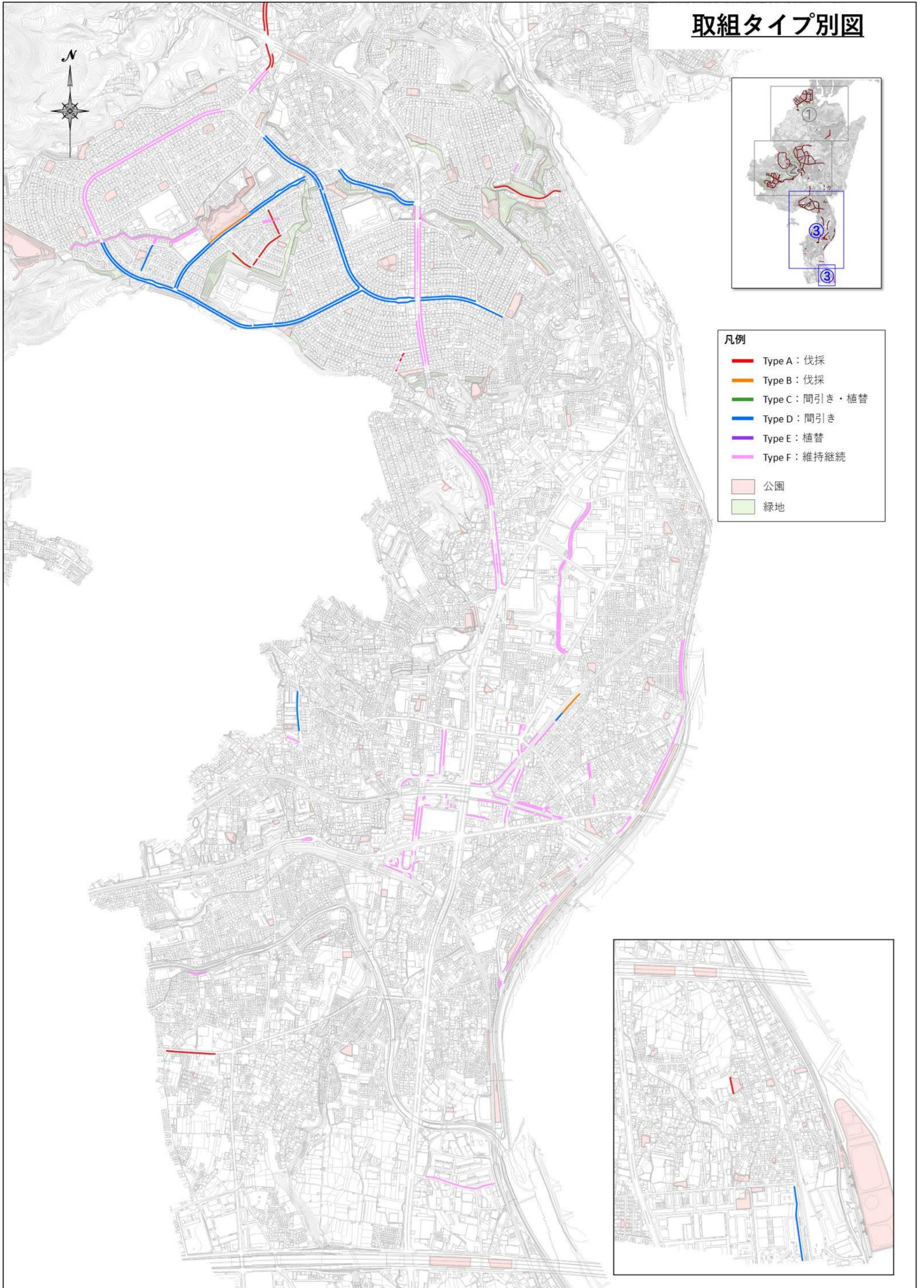


- 凡例
- Type A : 伐採
  - Type B : 伐採
  - Type C : 間引き・植替
  - Type D : 間引き
  - Type E : 植替
  - Type F : 維持継続
  - 公園
  - 緑地



図表 8 取組タイプ別図 (中部)

# 取組タイプ別図



図表 9 取組タイプ別図 (南部)